

日 時：平成26年9月29日（月）18時30分～19時55分

場 所：向陽多目的研修集会施設

対象町会：向陽

参加者：13名

■要望、質疑応答

○空き家対策について

（市民からの要望・質問）

当地区にも10件ほどの空き家があるが、所有者が行方不明、連絡が取れない場合、相続放棄となってしまった家など、完全に放置されて雑木が生えてきている状態で近隣の住民も困っており相談を受けているが、町会としてもどうすることもできずにいる。何かいい方法はないかお聞きしたい。同様に、管理されていない空き地についても害虫が発生したりするので、空き家も空き地も含めた対応をお聞きしたい。

（市の回答）

- ・空き家問題は全国的な問題となっている。平川市は今年度中に空き家対策の条例を作る予定である。
- ・空き家は個人の財産であり、条例を作ったからといって行政が取り壊すことはできず、困っている。
- ・市内に約400件の空き家があるが、「人が住めない空き家」、「リフォームすれば使える空き家」を調べ、空き家の利活用を考えていきたいと思っている。
- ・空き家を取り壊すことになっても、取り壊し費用を所有者から徴収できなければ、皆さんの税で負担することになってしまう。
- ・土地に建物が建っていると固定資産税が安く、建物がなくなると高くなるので、国でそのような仕組みを変えようとする動きもあるようだ。
- ・確かに今にも崩れそうで危険なところは市が解体しなければならないと思われるが、個人の所有物にどこまで手を付けていいのかは非常にむずかしい問題である。
- ・個人のものであるので簡単にはいかないと思う。
- ・市でも持ち主を手を尽くして調査し、手紙を出すなどの対応をするので市役所に相談してくださるようお願いいたします。

○耕作放棄地の解消について

（市民からの要望・質問）

耕作放棄地に対する市の対策を教えてください。

持ち主もわからないような場所は、地域で草刈りをしている場所もあるが、所有者のわかっているところは対応に困っているという現状である。

（市の回答）

- ・耕作放棄地は、農業委員会を中心に解消を図っている。
- ・米の値段が安くなっていくと、ますます耕作放棄する人も出てくるかもしれない。
- ・耕作放棄地の解消事業があるが、国の補助金に市が補助率をかき上げて、1割の個人負担でできるようにしているが、それでも借りた方が安いのか希望者がおらず、今は予算が減っている状態です。

○農業関係の助成制度について

(市民からの要望・質問)

耕作放棄地の話に関連して、りんごを6反歩耕作していたが、耕作放棄に近い状態であった隣の畑も買い取り耕作面積を広げた。放置されていた畑を耕作できる状態に戻すことや土地の登記などに費用かかったが、農業委員会に聞いても、いろいろな助成の制度は認定農業者でなければ受けることができないなどの一定の要件を満たさなければならず、できれば全ての農業者が受けられるようにしてほしいと思っている。市の考えを聞きたい。

(市の回答)

- ・困っていることが非常に理解できる。どのようなやり方できるのか、持ち帰って検討させていただきたい。
- ・国の方針である担い手対策に準じて、市でも認定農業者に重点的に支援している。ただ、そこから外れた人にどのような支援ができるかを考えていかなければならない。
- ・認定農業者に関しては農林課が主に担当していますので、農林課に相談してみてもどうか。

○稲わらの処理について

(市民からの要望・質問)

最近、防災無線で「わら焼きの防止」について放送されている。確かに稲わらは堆肥化するのがいいと思うが、例えばロールベアラを使った稲わらの回収に対する助成などがないうものか知りたい。ロールベアラのオペレーターがりんごの作業とぶつかるので難しいところもある。

(市の回答)

- ・助成の制度はあるはずである。詳しくは農林課へ確認していただきたいが、1反歩あたりすき込みが800円、回収は1,000円だったと記憶している。その他に機械購入などの助成もあるはずである。
- ・今のコンバインは稲わらを短くカットしてしまうので、ロールベアラでなければ回収が難しいだろう。
- ・県ではわら焼き防止条例があるが、罰則規定を付けられない条例でありなかなか効力がなく、今でも天気のいい日はわら焼きをしている人が多い。
- ・稲わらを集める業者もあると聞いたこともある。また、県南では畜産も盛んなので多少

は稲わらの需要もあるようだが、いずれにしてもりんごも作っている人にとっては、定期的に難しいのだろう。

○バイパスの完成時期について

(市民からの要望・質問)

バイパスの完成時期はいつか。通学路でもあり危ないので早く完成してほしいと思っている。

(市の回答)

- ・市の重点要望として県に提出していた路線である。要望の順位も上位の路線である。
- ・着手の話はあったが、藤崎から尾上まで続く都市計画道路のあとでなければ着手できないとのことであった。
- ・雪が多い時はこの道路が大変であることも十分わかっているが、なかなか進んでいない状態である。
- ・この地域では、他に沖館に向かうカーブの所も隅切りなどの対応をし、安全対策を進めていきたいと思っている。

○側溝整備について

(市民からの要望・質問)

神社から保育所へ向かう途中で、道路を横断する側溝による段差が大きい。りんごを運搬する時などは大変である。

県道で、マルシンの向かい側の側溝の整備もお願いしたい。

(このあと、大雨であふれる側溝の話になり、様々な箇所についての話になった)

(市の回答)

- ・昨年の大雨による浸水箇所が多く、こうやって皆さんから話を聞いてみて、どのように順番をつけて行けばいいのか非常に悩むところです。

○観光振興について

(市民からの要望・質問)

北海道新幹線の開業を間近に控え、平川市の冬のねぶたをもっとアピールして観光に結び付けられないものか。

(市の回答)

- ・観光のPRは大切だと思っている。特に平川市の夏のねぶたは非常に評判がよく、2日間で4万5千人くらいの人出があった。距離が短い割に人が多く、距離を長くすることも考えて行きたいと思っているが、同時に安全対策にも力を入れる必要がある。
- ・市のPRはいろいろな方法で発信していかなければならないと思う。5年目を迎え、今

後どのようにするか検討は必要だが、平川市をPRするイベントとしてはいいのではないかと考えている。

- ・合併して10年ということで、イベントを計画している。全国的に発信できるようなものはないか、庁内で検討を進めているところです。

○名誉市民である木村甚弥氏宅の整備について

(市民からの要望・質問)

名誉市民である木村甚弥氏宅が放置されており、市で記念公園として整備できないか。地権者は当市とのつながりも薄く、売却を希望しているとのことである。しかし100坪と面積も広いことから簡単に売買が成立するとは考えられません。誰も居住しなくなって数十年経過しており、徐々に荒廃し、石垣の崩壊などで近隣に危険が及ぶ可能性もあります。名誉市民の生誕の跡地が荒廃するのは地元の者として耐えがたい気持ちである。建物など、管理に費用のかかるようなものはいらないので、せめて見苦しくないように整備し、木村氏の名前が忘れられないように、記念公園とすることを提案しますので、ご検討をお願いします。

(市の回答)

- ・木村先生はりんご作りにとっては神様のような存在である。
- ・忘れられないようにとのことだが、りんごを作る人にとっては「木村甚弥賞」があるので、木村甚弥先生の名前はずっと残っていくのではないかと思います。
- ・記念公園とのことだが、一番難しいのは管理をどうするのか。ということである。
- ・木村先生をたたえるのは、公園を作るという形がいいのか、別の形がいいのか。そういったことも含めてどういうことができるのか検討させてほしい。

○農道の舗装について

(市民からの要望・質問)

原田へ向かう道路からバイパスへ抜ける農道を2、3本舗装してほしい。

(市の回答)

- ・2～3本舗装してほしいとのことだが、具体的にどの道路のことか示していただきたい。

○子供会について

(市民からの要望・質問)

子供会活動が少ないと感じている。親たちの交流を含め、子供会が原点となっていたと思っている。

(市の回答)

- ・近年、子供も少なくなっているし、子供会の数も減っている。

- ・男子は野球、女子はソフトボールが盛んで、休日の部活動と重なるため子供会も活動しにくいところがあると思う。
- ・ただ、子供会活動を通したつながりも大切であると考えているので、どうすれば活動を活発にできるかについて考えてみたいと思う。

○防災無線について

(市民からの要望・質問)

行方不明者についての防災無線の放送があったが、見つかったのかどうか放送されないのでは知らせてほしい。

夕方5時に「夕焼け小焼け」の音楽が放送されるが、夏は5時の時報では早いので、もう少し遅くできないか。

(市の回答)

- ・放送する際には家族の方の同意がないと放送できない。皆さんにはせっかく気にかけていただいたのに申し訳ありませんが、放送できない場合もある。
- ・5時の音楽は、防災無線のテストで音楽を流させていただいている。賛否があることも承知しているが、よろしく願います。
- ・子供たちが家に帰る時間としてのお知らせとしてはいいと思っている。

○鳥の被害について

(市民からの要望・質問)

これまでのまちづくり懇談会で、鳥の被害についての情報はなかったか。近隣の市町村で追い払うと平川市にくることもあるだろうし、市では何か対策を考えているか。田んぼにも来ている。

(市の回答)

- ・以前、議会の一般質問でもありましたが、根本的な対策はなかなか難しいところです。
- ・広域で対応できればいいのだが。

○アメリカシロヒトリについて

(市民からの要望・質問)

市役所では薬剤と噴霧器を貸し出ししているが、一人暮らしの高齢者などは使用できないと思う。そのような方に対しては、市で対応できないか。

(市の回答)

- ・いろいろな所から願いがくるが、町会にお願いしている。薬剤は提供するので町会で対応をお願いしたい。
- ・自分のところに散布したついでに、隣の高齢者宅にも散布するなど、助け合ってほしい。

- 雪対策もそうだが、地域内で助け合っつながりをもっていただきたいと考えている。
- こういったことを考えるきっかけとして、この懇談会を開催している部分もある。
- アメリカシロヒトリは年に2回発生するが、9月に発生したものを駆除しないと翌年も発生する。葉にクモの巣のようなものができて、1箇所にも固まっているうちに駆除すると効果的である。
- 1件から1,000円をもらって駆除している町会もあると聞いたことがある。

○コミュニティ育成奨励金について

(市民からの要望・質問逸)

コミュニティ育成奨励金は今後も続けていただきたいと思う。

(市の回答)

- 5年ごとに事業の見直しは行う。見直しによって金額の増減はあるかもしれないが、コミュニティ育成奨励金は継続するつもりである。
- 他自治体では、市が実施する事業を地域で実施する代わりに補助金を出している事例もあり、さまざまな検討を行う予定である。
- いずれにしても地域づくりを行うための支援は続けていきたいと思っている。